



しんねん あ
新年明けましておめでとうございます

がっこうちょう もり あい こ
学校長 森 愛 子

あたらし とし たの ふゆやす おも で ともだち かた あ こ たち
新しい年のスタートです。楽しかった冬休みの思い出を友達と語り合いながら、子ども達
げんき どうこう きて き こ 子ども達は、通学路や校門で学援隊の方に見守られながら登校
した後、各門であいさつ運動をしている6年生から、「おはようございます」と声をかけら
れます。1年生は、入学時から6年生に手伝ってもらったり、遊んでもらったりと関わり
が深く、6年生のことが大好きですから、とても反応がよく喜んで挨拶を返しますが、他の
がくねん とき へんじ かえ こ
学年だと、時には、なかなか返事が返ってこない子もいるようです。

はる じみち つづ かつどう きも かつどう ねん くみ
春からずっと地道に続いている活動ですが、どんな気持ちで活動しているのかを6年1組
の児童にインタビューしてみました。きっかけは、代表委員会であいさつ運動を盛り上げ
ようという提案であり、全校で取り組む「あいさつ週間」終了後、クラスで相談し、みんな
で続けることにしたとのこと。当番制でなく、やれる人がやるという中、寒さが厳しくな
ってからも毎日続けているという人達に続けられた理由を聞いてみました。「あいさつを返
してもらおうとうれしくて気持ちがよくなる。」「あいさつをする人が増えてきて、やる気につ
ながった。」「あいさつすると、『心の会話』ができて、する方もされる方もどっちもいい感
じがする。」「自分の成長になると思っている。6年として、学校のために自分に何ができ
るかと思っています。一方で「素通りされるとへこみ、意欲が下がってしまう。」という声も
ありましたが、「最初、してくれなかった人がしてくれて、してくれる人がどんどん増えて
きて、やりがいが出てきた。」「下級生から、『あいさつの人だ』と言われるとうれしくなる。」
と続けてきたからこそ味わえる喜びを感じているようです。今後は、「実は、去年の6年生
がやっていたから、それを受け継いだという気持ちもあるので、今の5年生にも引き継ぎ、
いちさわしょう でんどう えがお がっこう
市沢小の伝統にしたい。」「みんながあいさつして、みんな笑顔の学校にしたい。」「あいさ
つ+もう一言ができるようにしたい。」と意気込みを語ってくれました。

さいこうがくねん たの かぎ すなお やさ まえむ こ たち しんまいこうちょう
最高学年として、頼もしい限りです。素直で優しく前向きな子ども達に、新米校長であ
る私は、毎朝、元気をもらっています。

こんねんど のこ あとさんかげつ ねんせい てほん しめ すがた ねんせい あこが
今年度も残すところ後三か月。6年生がしっかりと手本を示し、その姿に5年生が憧れ
の気持ちを持ち、市沢小の新たな伝統を創り上げていけるよう、教職員一同力を合わせ
て頑張ります。市沢の子どもを中心に、家庭・地域の皆様と手を携えて進んでいきますよ
う、本年もどうぞご理解・ご協力よろしくお願ひいたします。